

(様式1)

自己評価表(令和7年度)

愛媛県立宇和島水産高等学校
学校番号(41)

グラデュエーション・ポリシー(育成を目指す資質・能力に関する方針)	カリキュラム・ポリシー(教育課程の編成及び実施に関する方針)
○水産業・海洋関連産業・海運関連産業を通じ、地域や社会の持続的発展を担う職業人として必要な豊かな人間性を育成する。 ○自律・協働及び勤労の精神を培うとともに、国際感覚を持ち、時代に適応した知識・技術を身に付ける。 ○社会における課題を発見し解決する能力や創造する力、主体的に行動する力を育成する。	○地域の産業界等と連携した実践的・体験的な学習活動の充実を図り、分かる授業を展開する。 ○生徒の適性や水産・海洋系大学への進学など多様な進路希望に対応した選択科目を開設するとともに、各種職業資格の取得を推奨する。 ○学力の向上を図るため、習熟度差の大きい科目においては、習熟度別クラスを編成する。 ○地域企業や大学等と連携した授業や実験・実習を行ったり、インターンシップ等を行ったりして、キャリア教育を推進する。 ○各授業で教育機器をより多く活用し、生徒が学習活動において、ICTを主体的に活用する能力と態度を育てる。 ○生徒が主体となり学校行事、生徒会活動、部活動等を実践する。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
グラデュエーション・ポリシー	グラデュエーション・ポリシーの達成	グラデュエーション・ポリシーに沿って生徒が成長していると感じる教職員の割合7割以上 A: 十分な成果があった B: かなりの成果があった C: 一応の成果があった D: あまり成果がなかった E: 成果がなかった	B	自己評価4が40%、3が53.4%であった。	引き続き、授業や部活動、地域連携活動等を通じて、グラデュエーション・ポリシーに沿った生徒の成長を促していきたい。
学習指導	学習の習慣化	校内もしくは家庭で、1日2時間以上の学習時間を確保させる。 A: 2時間以上 B: 1時間30分～1時間59分 C: 1時間～1時間29分 D: 30分～59分 E: 29分以下	C	平日45.2時間(D) 休日55.7時間(D) 調査中127.4時間(A) 平均76.1時間(C)	平日・休日・調査中のいずれにおいても、昨年度よりも学習時間が減少した。目標の達成に向けて、平日や休日の家庭学習について継続して指導していきたい。
	基礎学力の充実	校内漢字テスト・英単語テスト・計算力テストにおける80点以上の生徒の割合が50%以上となるよう指導する。 A: 各7回以上 B: 各6回以上 C: 各5回以上 D: 各4回以上 E: 各3回以下	D	漢字テスト7回(A) 英単語テスト1回(E) 計算力テスト2回(E)	昨年度、達成回数が多かったため、目標を上方修正した。今年度はその分、達成回数が減っている。しかし、各学年で共通のプレテストを行うなど、小テストに取り組む意識を高められていると感じる。生徒間の点数差が大きいため、放課後等も利用して指導していきたい。
	思考力・判断力・表現力の育成	各科目において、授業に関する内容を自ら調べたり学んだりさせる。 A: 10割の生徒が活動できた B: 8～9割 C: 6～7割 D: 4～5割 E: 3割以下 各科目において、自分が調べたことや学んだこと、自分の考えを発表させる。 A: 10割の生徒が活動できた B: 8～9割 C: 6～7割 D: 4～5割 E: 3割以下	C B	自己評価4及び3(86.7%) 自己評価4及び3(83.4%)	各教科・科目で探究的な内容が増えてきている。生徒が主体的に学習に取り組めるよう、今後も継続して取り組んでいきたい。 生徒によって、主体的に取り組む姿勢に差があるが、今後も継続して取り組んでいきたい。
生徒指導	基本的生活習慣の確立	1か年皆勤者、各学年65%以上を目指す。 A: 65%以上 B: 60%以上～65%未満 C: 55%以上～60%未満 D: 50%以上～55%未満 E: 50%未満	E	欠席、遅刻者が多くみられた。皆勤者は全体の45.5% 1年生28.1%、2年生62.3%、3年生47.2%であった。	学年団を中心に、本人に注意喚起。合わせて、ご家庭との連携を強化。
		身だしなみ指導での再指導者数、各学年5%以下を目指す。 A: 5%以下 B: 6% C: 7～8% D: 9% E: 10%以上	B	1、2年生は特に問題になる生徒はいなかった。3年生で4名の頭髮違反を指導した。学年の7.5%になる。	令和8年度に身だしなみの一部改正を行う予定である。

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
生徒指導	豊かな心・健やかな体の育成	部活動加入率100%を目指す。 A：100% B：90%以上～100%未満 C：80%以上～90%未満 D：70%以上～80%未満 E：70%未満	C	加入率は89・6%であった。 昨年度は100%	現部員をしっかり指導し、継続努力を行っていく。
	奉仕精神の育成	ボランティア活動をする生徒90%を目指す。 A：90%以上 B：80%以上～90%未満 C：70%以上～80%未満 D：60%以上～70%未満 E：60%未満	A	宇和島道路高架下清掃：全校生徒参加 海の日の奉仕活動：89名参加	他のボランティア活動にも参加した生徒が多かった。継続して呼びかけていく。
	安全教育の徹底	交通マナーを徹底し、登下校、休日の事故件数ゼロを目指すとともに、登下校時のヘルメット着用率100%を目指す。 A：事故0（着用100%） B：事故3以下（着用95%以上） C：事故5以下（着用90%以上） D：事故7以下（着用85%以上） E：事故8以上（着用85%未満）	B	5月 2年生男子 登校中に自転車で車と接触怪我なし。 5月 2年生男子 登校中自転車で転倒、打撲 5月 1年生男子 登校中自転車で車と接触、打撲、軽傷。	ホームルーム活動、生徒集会、交通安全委員会、街頭指導等を通じて根気よく指導していく。
進路指導	進学指導の充実	第1志望校合格100%を目指す。 A：100% B：95%以上～100%未満 C：90%以上～95%未満 D：85%以上～90%未満 E：85%未満	A	進学希望者19名のうち、全員が希望する学校に合格することができた。内訳は、4年制大学1名、短期大学3名、本校専攻科10名、専門学校5名である。しかし、途中で進学から就職に変更する生徒も1名いた。	1年次からの進路指導を大切にし、具体的な目標が決まれば必要な対策を始める。4年制大学希望者には、必要な学力を身に付けられるよう、継続的に指導する。学年、教科担任、進路課等、教職員全員で連携し、個々の希望に応じた指導を計画的に行い、進路実現を目指す。
	就職指導の充実	就職希望者の就職率100%を目指す。 A：100% B：95%以上～100%未満 C：90%以上～95%未満 D：85%以上～90%未満 E：85%未満	A	就職希望者34名のうち、全員が希望する就職先に決定した。内訳は、学校推薦が30名、自営が2名、縁故が2名であった。	1年次からの進路指導を大切にし、早めに就職への意識を持たせる。様々な職業や自己の適正について研究し、職場見学等を通して自分の意志で就職先を選ぶよう指導する。また、社会人として必要な基礎学力やコミュニケーション力を身に付けて試験に臨めるよう、学校生活を通して指導していく。
		就職希望者の水産・海洋・食品系分野への就職率60%以上を目指す。 A：60%以上 B：55%以上～60%未満 C：50%以上～55%未満 D：45%以上～50%未満 E：45%未満	A	就職内定者34名のうち、水産・海洋・食品系分野への就職は22名で、65%となった。船舶関係3名、養殖関係13名、食品製造・調理関係6名であった。今年度目標値を上げたが、達成することができた。3年間、専門分野の学習に取り組んだ成果が表れている。	専門分野の学びを大切にし、それを生かした就職先に就くことや、水産業に携わって地域を支えていくことの大切さなどを、今後も学校教育全般を通して継続的に伝えていく。
	資格等取得者の増加	資格試験等に積極的に取り組ませ、卒業時に一人1資格以上の取得を目指す。 A：100% B：90%以上～100%未満 C：80%以上～90%未満 D：70%以上～80%未満 E：70%未満	A	3年生全員が、卒業時に1つ以上の資格を取得することができた。1つだけの生徒はほぼおらず、複数取得している生徒が大変多い。専門学科の資格を中心に積極的に挑戦した成果が表れている。	専門科目における資格取得を第一目標とし、漢字検定や英語検定などの一般教科の資格や、工業、商業系の資格にも積極的に挑戦するよう、今後も継続して働きかける。受験者には、補習等の指導を充実させて合格を目指す。
業務改善	時間外労働の削減	一人1台パソコンや校務系ネットワークの活用により業務の更なる効率化及び平準化を図る。引き続き有給休暇等を取得しやすい環境改善に努める。	C	一人1台パソコンや校務系ネットワークを活用することにより業務の効率化を進めることができた。多くの教職員が有給休暇の取得することができたが、一部の教員に業務が偏っている状況が解消できていない。	一人1台パソコンや校務系ネットワークの更なる活用と業務の平準化に努める。有給休暇についても、教職員全員が取得できるよう環境改善に努める。
	職場環境の整備	衛生委員会の充実及び実効性を高める。教職員のメンタルヘルスを改善させるため、定期的な健康相談や健康講座の実施に努める。事務課との連携により施設設備の更なる充実に努める。	C	衛生委員会を中心に、教職員のメンタルヘルスを保つための声掛けや健康相談の機会を定期的に持つことができた。また、事務課との連携により、校内施設を充実させることができた。	教職員のメンタルヘルス改善のための声かけや健康相談の機会をこまめに設けるよう努める。また、事務課と連携し、施設・設備の更なる充実に努める。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。